

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- ◎知的障がいのある生徒が就労を通じた社会的自立をめざす学校
- ◎仲間、地域、社会とつながり、地域での社会的自立をめざす学校
- 1 生徒一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばし、健やかな体と心豊かな人間の育成をめざします。
 - 2 実践的な職業教育の充実を図り、仲間と地域の中での学びを通して、主体的に社会に貢献できる人材を育成します。
 - 3 泉北・泉南地域における知的障がい生徒の就労支援の拠点校として支援教育のセンター的機能を発揮し、学校の取組みを発信します。

2 中期的目標

創立3年目となる本校は、昨年度に引き続き、めざす学校像を実現するために校内組織の発展的改正を行いつつ、さらなる充実を目指します。特に初めての卒業生がでる今年度は、めざす学校像の「知的障がいのある生徒の就労を通じた社会的自立をめざす学校」の実現と、卒業後の豊かな生活獲得のための職場定着を含めた、支援体制充実の計画立案を行います。そのために、管理職と首席が目標実現推進の舵取りを行い、学年主任、学科長、校務分掌長が推進組織として具体的な年間計画立案を行います。計画に基づき、全教職員がその主旨と内容を理解して実行に移します。ここでは絶えずP D C Aサイクルによる効果の検証を図りながら、次の「中期的目標」を達成していきます。

- 1 高等支援学校教員としての専門性の確立
 - (1) 授業力の向上
 - (2) 教員の支援教育の専門性と社会人としての資質向上をめざす
 - (3) 生徒の特性把握と個別課題を見つけ、より幅広い適性を高める教育
 - (4) 保護者と学校が就労希望者100%の企業就労の進路目標を共有
- 2 地域の知的障がい生徒の就労支援の拠点校としての使命を果たす
 - (1) 支援教育のセンター的機能の発揮
 - (2) 積極的な広報活動により地域、企業とのつながりを強める
 - (3) クラブ活動の活性化と合同練習等の高等支援学校間連携
 - (4) 泉北・泉南地域の支援学校の包括的な連携（佐野支援、泉南支援との3校連携を推進）
- 3 地域に貢献できる社会人、職業人を育てる校内組織の充実
 - (1) 教職員の見守る力で安心・安全に過ごせる学校環境づくり
 - (2) 常に進化を続ける学びと実践の人材育成
 - (3) 卒業後の職場定着支援体制の確立と、豊かな生活実現を実現するために関係機関との連携

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 1 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>○生徒、保護者、教職員を対象に実施 生徒 86% (H27 年度 91%) 保護者 86% (H27 年度 91%) 教職員 98% (H27 100%)。生徒保護者は高い数値であるが 90%以上になる努力が必要。今年度は3学年揃い母数が増加した。昨年度と同時期に実施したが、今後、時期や周知方法を検討する実施する予定。来年度教師 100%とする。</p> <p>【学校満足度等】 「学校に行くのが楽しい」「子どもは学校に行くことを楽しみにしている」の設問では、生徒 77%、保護者 87%が肯定的にとらえている。ただし、「学校生活について先生の指導に納得できる」「学校の教育活動について満足できる」という、学習指導等についてはそれぞれが生徒 75%、保護者 90%となっている。これは生徒に対して、さまざまな指導支援を展開するうえで、より一層きめ細かく家庭背景等の実態を把握し、集団の中の個性性を重視し、特性に応じた対応が重要であると考えられる。</p> <p>【生徒理解、人権教育等】 「先生は私たちの障がいについてよく理解してくれている」「学校は（担任）は子どもの障がいについてよく理解している」の設問では、肯定的が生徒 73%保護者 82%。「命の大切さや社会のルール、人権について学ぶ機会がある」「学校は子どもの人権に配慮した教育活動を行っている」では生徒 88%保護者 81%と肯定的にとらえているが、教職員自らのより一層の研修と共通理解が必要である。</p> <p>【進路指導等】 「学校は進路についての情報を知らせてくれる」「学校では適切な進路指導が行われている」の設問では、生徒 92%保護者 89%と満足度が表れている。「就労を通じた社会的自立」という教育目標と、生徒保護者のニーズが一致していると理解しているが、来年度は一期生の定着支援と二期生マッチングについて、さらにきめ細かい指導が必要と考えている。</p> <p>【施設設備等】 「教室や特別教室・体育館などは、授業や生活がしやすいように整備されている」「学校の施設・設備は満足できる」の設問では、生徒 95%保護者 83%であり、泉南支援学校と併設校であるが、その条件の中でほぼ満足の値が出ている。</p> <p>【危機管理等】 「地震や火災などが起こった場合、どうしたらよいかをわかりやすく教えてくれる」「子どもの健康や安全について充分配慮、対応している」の設問では、生徒 81%保護者 92%と、全体にはほぼ肯定的にとらえている。</p> <p>○学校協議会（第3回平成29年2月3日実施）からの意見 昨年度と同様かUPしている項目もあることは、学校教育目標に沿う教育活動を生徒、保護者はほぼ同意し納得していることが伺える。それは回収率が85%を超えていることから理解できる。</p>	<p>第1回（平成28年6月10日）テーマ「就労の実現と職場定着、そして豊かな社会生活の獲得へ」</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 卒業後、就職をしたくないという生徒もいるはず。進路選択のきっかけが必要で、やりたいことが見つけられるように取り組むことが重要。 ② 生徒一人ひとりをよく考えて進路指導していることがわかる。在学中の自己選択・自己決定の場はとても重要である。 ③ 就労していくうえで、言葉の表現を割愛してはいけないと感じる。丁寧に仕事を教えていく中で、自分のしたいこと・できること・生きるためにしなければならないことを本人が認識して行動できるようになっていく。 <p>第2回（平成28年12月2日）テーマ「学校経営計画の進捗状況について」</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 「学校経営計画」の中で順調に進んでいる項目が、生徒・保護者に対し、教職員関係の項目が滞っている。教職員の士気を高めることが、生徒の士気高揚につながる。 ② 「授業アンケート」について、授業満足度は高いがその結果どうなのかを考察する必要がある。 ③ 作業療法士の活用について、就労の際に身体の使い方がストレスにならないような視点での相談がなされていることが「学校経営計画」の中で確認された。 <p>第3回（平成29年2月3日）実施予定</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学校教育自己診断結果を考察すると、昨年度は生徒、保護者の満足度は高いが教職員の満足度が低いのが気がかりであった。今年度は教職員の満足度が上昇しているので、色々な部分での努力を感じる。 ② 平成28年度学校経営評価（案）の「高等支援学校教員としての専門性の確立、一の（2）」が低い評価となっている。教員の専門性向上は大切な事項であるので、来年度の更なる努力を期待する。 ③ 平成28年度学校経営評価（案）の「地域の知的障がい生徒の就労支援拠点校としての使命を果たす、二の（2）」イ、地域アンテナショップとの連携強化の部分で、昨年度連携を実施していたアンテナショップとの連携が途絶えている。地域の方々も、高等支援学校の生徒の交流を楽しみにしているので考慮を願いたい。

府立すながわ高等支援学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
一、高等支援学校教員としての専門性の確立	<p>(1) 授業力の向上</p> <p>(2) 教員の支援教育専門性の向上と社会人としての資質向上をめざす</p> <p>(3) 生徒の特性把握と個別課題を見つけ、より幅広い適性を高める教育</p> <p>(4) 保護者と学校が進路目標を共有</p>	<p>(1)</p> <p>ア、教員間の授業研究、初任者支援体制拡充 公開授業、授業参観等の実施、教材研究充実</p> <p>イ、社会人人材バンク、医療的人材活用事業等の授業や実習への積極活用</p> <p>ウ、ICTの積極活用</p> <p>(2)</p> <p>ア、校内研修の実施や外部講師を招聘して公開研修会の開催</p> <p>イ、進路研修やマナー講習の実施</p> <p>ウ、認定講習等各種研修に積極参加</p> <p>エ、校内人材育成体制の充実</p> <p>(3)</p> <p>ア、「個別の教育支援計画」の充実と活用、「個別の移行支援計画」の作成と引き継ぎ</p> <p>イ、生徒への職業適性検査の実施とその結果の活用</p> <p>ウ、生徒、保護者のニーズ把握とアセスメント</p> <p>エ、企業ニーズを踏まえた高等支援学校としての実践的職業教育の実施</p> <p>(4)</p> <p>ア、進路関係行事等の実施と充実</p> <p>イ、保護者懇談会等の実施で、保護者との共通理解と合意の形成</p> <p>ウ、教育活動等の周知発信</p>	<p>(1)</p> <p>ア、<u>初任者年間2回の研究授業実施、公開授業週間2回保護者や府立学校への公開等で授業力向上</u></p> <p>イ、<u>福祉行政職員、施設職員、清掃会社員等を招聘して授業、講習会年間5回実施</u></p> <p>臨床心理士、作業療法士の活用年間7回以上</p> <p>ウ、<u>ICT機器を授業で積極活用、校内研究授業年間2回実施</u></p> <p>(2)</p> <p>ア、<u>校長主催の初任者研修を月1回以上開催、全職員対象校内研修月1回以上、外部講師等の公開研修を前後期各1回開催、人権研修年間3回以上開催</u></p> <p>イ、分掌主催の進路開拓等に係る研修と外部講師等の研修開催</p> <p>ウ、<u>教員特別支援免許保有率70%以上</u></p> <p>エ、初任者育成パディシステム構築</p> <p>(3)</p> <p>ア、1期生「個別の移行支援計画」の作成と保護者を通じての引き継ぎを徹底</p> <p>イ、適性検査を職業学科のグループングに活用</p> <p>ウ、生徒、保護者へ寄り添った将来へのニーズ把握と、本人や家庭状況等の実態把握を徹底</p> <p>エ、<u>企業担当者講師の研修会年1回以上</u></p> <p>(4)</p> <p>ア、<u>進路説明会、見学会、懇談会等年間5回以上実施</u></p> <p>イ、<u>1年生家庭訪問1回、懇談会年間2回以上実施</u></p> <p>2、3年生は<u>保護者懇談会等前後期各1回以上実施</u></p> <p>ウ、<u>月2回学校Webページ更新、学年通信等月1回以上</u> 保護者への積極的な発信で、「学校教育自己診断の回収率アップを図る</p>	<p>(1)</p> <p>ア、初任者研究授業校内行事の都合により1回、公開授業2回実施(○)</p> <p>イ、授業、講習会等5回実施(◎)</p> <p>ウ、ICT授業で活用推進研究授業2回実施(◎)</p> <p>(2)</p> <p>ア、校長主催の初任者研修毎月は実施できず年間通算2回実施(△)</p> <p>イ、校内進路研修、外部講師招聘研修実施(◎)</p> <p>ウ、免許保持率65%(△)</p> <p>エ、システム円滑に活動(○)</p> <p>(3)</p> <p>ア、「個別の移行支援計画」の保護者引き継ぎ完了(○)</p> <p>イ、グループングに活用(◎)</p> <p>ウ、ニーズ実態ほぼ把握(○)</p> <p>エ、講習会1回開催(○)</p> <p>(4)</p> <p>ア、進路行事等5回実施(◎)</p> <p>イ、懇談会等2回実施(◎)</p> <p>ウ、webページ月1回更新(○)</p> <p>★来年度は授業研究等の回数を増やし、免許保持率upと共に更なる専門性の向上をめざす。また、外部講師等の積極的招聘を実施する。</p>
二、地域の知的障がい生徒の就労支援拠点校としての使命を果たす	<p>(1) 支援教育センター的機能発揮</p> <p>(2) 積極的な広報活動で地域、企業とつながる</p> <p>(3) クラブ活動の活性化と高等支援学校間の連携</p> <p>(4) 泉北・泉南地域の包括的連携</p>	<p>(1)</p> <p>ア、地域諸学校へキャリア教育支援と生徒支援</p> <p>イ、共生推進校、地域諸学校との交流と連携</p> <p>ウ、協力企業や関係機関との連携で、地域企業への本校教育の発信と障がい者理解啓発支援</p> <p>(2)</p> <p>ア、全学年年間2回実施の現場実習先と就労先企業、事業所の開拓</p> <p>イ、地域への社会貢献活動と地域資源開拓活用</p> <p>(3)</p> <p>ア、クラブ活動を通じて自己肯定感の育成</p> <p>イ、クラブ活動を通じて卒業後の余暇活用習得を支援</p> <p>ウ、クラブ活動を通じて高等支援学校間連携</p> <p>(4)</p> <p>佐野支援、泉南支援、岸和田支援、すながわ高等支援の進路指導4校連携</p>	<p>(1)</p> <p>ア、<u>地域高等学校等への支援年間2校以上実施</u></p> <p>イ、<u>共生推進校との進路等懇談協議年2回以上実施</u></p> <p>ウ、オープンスクール1回、学校説明会2回、中学校教員への研修会1回以上、協力企業とともに各企業へ啓発訪問前後期各1回以上実施</p> <p>(2)</p> <p>ア、全教員での<u>企業開拓年間200件以上</u></p> <p>イ、<u>地域アンテナショップとの連携強化と、交流ショップ等の新たな開拓年間1件以上</u></p> <p>(3)</p> <p>ア、入学生徒全員のクラブ活動入部と各種大会への参加</p> <p>イ、学校クラブ活動から地域クラブチームへの引き継ぎを実施して、卒業後の余暇有効活用につなげる</p> <p>ウ、<u>高等支援学校リーグへの参加、プロチームのコーチを招聘して地域学校との講習会等年一回以上実施</u></p> <p>(4)</p> <p>ア、進路指導を中心とした<u>4校連携会議等月1回実施</u></p> <p>イ、PTA活動、クラブ活動、授業などで交流連携実施</p>	<p>(1)</p> <p>ア、サポート校と高校各1校連携(○)</p> <p>イ、毎月協議等を実施(◎)</p> <p>ウ、説明会等の各種行事予定通り実施(◎)</p> <p>(2)</p> <p>ア、企業開拓431社(◎)</p> <p>イ、アンテナショップ新規開拓できず(△)</p> <p>(3)</p> <p>ア、全生徒クラブ加入(○)</p> <p>イ、地域クラブチームと連携をして引き継ぎ(○)</p> <p>ウ、高等支援リーグ実施、講習会3回実施(◎)</p> <p>(4)</p> <p>ア、連携会議年3回実施(△)</p> <p>イ、PTA等連携済み(○)</p>

府立すながわ高等支援学校

<p>三、地域に貢献できる社会人職業人育成の校内組織充実</p>	<p>(1) 教職員の見守る力で安心・安全に過ごせる学校環境づくり</p> <p>(2) 卒業後の職場定着支援体制の確立と、豊かな生活実現を実現するために関係機関との連携</p>	<p>(1)</p> <p>ア、生徒が安全、安心に過ごせる学校環境づくり</p> <p>イ、卒業後も見通した生徒教育相談体制の充実</p> <p>ウ、問題のある行動への指導支援体制充実</p> <p>エ、将来構想会議にてはじめて卒業生を出す学校としての諸課題解決</p> <p>(2)</p> <p>ア、就労後の職場定着支援校内体制の確立</p> <p>イ、就労後の職場定着支援を念頭に入れた各種関係機関との連携</p> <p>ウ、生徒、保護者のニーズを尊重しつつ、企業ニーズと生徒の特性を生かした職場マッチングの徹底</p>	<p>(1)</p> <p>ア、熱中症、感染症、事故防止の環境づくり（<u>学校保健委員会年間2回以上、保健だより月1回以上、環境点検月1回実施</u>）<u>人権研修等年3回以上</u></p> <p>イ、リーディングスタッフを中心とした随時の校内支援委員会と事例検討月一回以上実施</p> <p>ウ、福祉、医療関係等との連携で<u>性教育講習会等年2回以上</u></p> <p>エ、<u>月1回以上将来構想会議にて、分掌や教育課程の検討改定で全学年が揃った状況の新たな校内体制の構築</u></p> <p>(2)</p> <p>ア、進路職業部を中心に定着支援体制（クラブチームへの参加推奨、同窓会組織づくり等）の構築と、共通専門職業授業の充実</p> <p>イ、関係機関との福祉懇談会等実施で地域との連携</p> <p>ウ、<u>就労承諾企業 50 件以上の開拓を実現して、良好なマッチングにつなげる</u></p>	<p>(1)</p> <p>ア、各種環境づくり、委員会研修等7回実施（◎）</p> <p>イ、毎月事例検討等実施（◎）</p> <p>ウ、性教育講習1回実施（○）</p> <p>エ、校内体制ほぼ構築（○）</p> <p>(2)</p> <p>ア、定着支援チーム、同窓会発足（◎）</p> <p>イ、地域商工会等と連携（◎）</p> <p>ウ、就労承諾企業45社（○）</p> <p>★初めての卒業生を社会に送り出すにあたり、各種機関や企業との連携で定着支援を実施するための巡回期間を設定する予定。</p>
----------------------------------	---	---	---	--